

Part3 M2M市場拡大の方向性

# 広がる用途と産業領域

M2Mで新ビジネスを生み出す、その芽はどこにあるのか。市場拡大のカギは対象機器と用途の多様化だ。M2Mの活用領域はより小型の機器へ、そして収益アップや製品・サービス強化へと広がっている。 文◎坪田弘樹(本誌)

古くは機器の遠隔管理、最近ではセンサーネットワークなどさまざまな呼ばれ方をしているが、M2Mにカテゴライズされるものはすでに多方面に広がっている。さらに、M2Mを活用するための障壁が取り払われ、そのポテンシャルが一気に引き出されようとしている。今までとは異なる多数のプレイヤーが集まり、ビジネスの

可能性はさらに広がるはずだ。

M2Mサービスの需要は、どのように拡大していくのか。鍵は2つある。

### 数億台の潜在市場

1つは需要母体、つまりM2Mを使う産業領域の拡がりだ。従来のM2M市場といえば、工作機械・建設機械や自販機、エレベーターといっ

た大型機械の監視・保守業務の効率化を目的としたものが主だった。

その状況がここ数年、急激に変わりつつある。小型の機器でもM2Mを活用できる可能性が広がった。

すでに、自動車(テレマティクス)やデジタルサイネージ(コンテンツ配信)、電気・ガス・水道メーター(遠隔検針)といった領域にM2Mが使われていることは周知の通りだ。さらに、自然環境の調査(地震やCO2濃度)や河川流量監視等に用いられるセンサー、ホームセキュリティの警報装置、あるいは電子書籍やフォトフレーム、情報家電といったコンシューマ向け機器にも適用範囲が広がり始めている。

代表的なM2Mの既存市場である自動販売機の普及台数がおよそ400~500万台であるのに対し、例えば自動車の台数は7000万台超(二輪、貨物・特種用途含め)あり、電気・ガス・水道メーターはおよそ2億4000万台がM2Mの需要母体になり得ると推計されている。コンシューマ向け機器についても、市場調査によれば電子書籍、フォトフレーム等についてはそれぞれ数百万台のポテンシャルを秘めているという。

図表3-1 新しいM2M市場拡大の方向性

